

目的

- ・ゼロカーボン北海道の実現に向け、藻場の育成などCO2吸収源対策となるブルーカーボンの活用は重要な取組
- ・留萌地域は、広い藻場があり過去から藻場づくりに取り組むなど、ブルーカーボンの推進に向け大きな可能性を有することから、市町村や漁協、研究機関等が連携し、各海域の特性や地域の実情に応じた水産業振興につながるブルーカーボンの取組を進め、定着を図る

背景

- ・CO2吸収源としてブルーカーボンへの期待の高まり
- ・全国各地で取組が加速

【全国的な動き】

- 農水省「みどりの食料システム戦略」海藻類によるCO2固定化の推進
- 農林水産技術会議 (R2~6) ブルーカーボンの評価手法及び効率的藻場形成・拡大技術の開発
- R2.7 JBE 設立 (ジャパンプルーエコノミー技術研究組合) Jブルークレジットの認証開始
- 横浜市、福岡市、神戸市、宮城県などで取組を推進

【道の動き】

- 釧路総合振興局 R4.9.5「釧路管内ブルーカーボン推進検討協議会」設立 水産資源の育成とCO2吸収量確保の両立を図る取組を推進
- 道水産林務部 R4.11.17「北海道ブルーカーボン推進協議会」設立予定

課題

- ・藻場が縮小傾向
- ・CO2吸収量の把握や評価が必要
- ・取組が一部地域に限られる

対応方向

- ・管内の取組の拡大と定着
- ・CO2吸収源対策を水産業振興につなげる取組の検討
- ・吸収量の把握や評価の実施 (道水産林務部の動きを参考)

藻場の保全・創造



コンブ漁業・養殖



公共事業 増殖場、漁港整備等



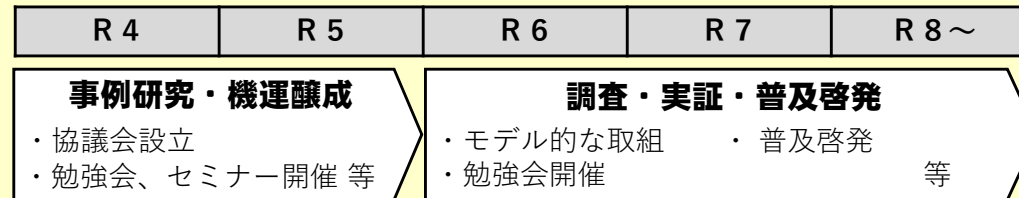
普及啓発



<検討例>

- ・ウニ、アワビなど浅海漁業での藻場活用
- ・粗放的ウニ養殖
- ・ハタハタ・ニシンなどの産卵藻場の保全
- ・海藻の一部製品化
- ・クレジット化の推進
- ・魚類残渣などの施肥利用
- ・漁獲物の付加価値向上など

■ 今後の予定 (イメージ)



ゼロカーボン北海道
への貢献

留萌らしいブルーカーボンの取組による水産業の振興